



橋北中学校だより

令和3年度 4月 16日(金)
第 1 号 文責:校長
津市立橋北中学校

令和3年度 橋北中学校が始まりました。

4月6日(火)、昨年度に引き続き、感染症予防対策のため、運動場で着任式と始業式を行い、橋北中学校の生徒は、整然と落ち着いた態度で始まりの式に臨みました。翌4月7日(水)には、206名の新入生を迎え、入学式を行いました。今年度の橋北中学校は、新2年生227名、新3年生192名を合わせ、全校生徒625名でのスタートになります。



新年度の始まりにあたり、始業式では「学ぶこと」「仲間」「いのち」を大切にという願いを伝え、入学式では「一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、互いに励ましあい成長する仲間であってほしい」「自分自身

は必ず伸びる存在であると信じ、しっかりと学んでほしい」「橋北中学校の良き伝統に誇りを持ち、地域の願いを受け、中学生活を送ってほしい」と伝えました。日々の生活そのものの中に「学び」があります。多くの生徒がともに学び、授業やさまざまな行事、部活動等を通して、切磋琢磨しながら成長する橋北中学校を、私たち教職員も、ともに作り上げてまいります。

新型コロナウイルスの感染状況は依然として厳しい中ではありますが、新年度の諸行事は感染予防に十分気を配り、健康状態確認・換気・手洗いなどに取り組みながら進めています。

4月8日(木)には、津市 GIGA スクール構想におけるタブレット端末貸与式を、津市長をお迎えして行いました。校長室にて生徒会役員が代表で受け取り、その様子を各教室の大型テレビ映像を全校生徒が見る形での式となりました。貸与のあと、市長からお言葉をいただき、生徒代表がお礼とともに、タブレットを大切に活用しながら、学習していくことへの期待や決意を述べました。タブレット端末は生徒一人ひとりに卒業まで津市から貸与されます。



準備が整い次第、津市教育委員会が定めたルールをもとに、朝の会で端末を配付し帰りの会までに保管庫へ戻すなど、橋北中独自のルールを設定して活用していきます。今年度は基本的に家庭への持ち帰りはしませんが、万一、臨時休業等が実施される時には、津市の取り決めに沿って、家庭学習で「津市 e-Learning ポータル」や ZOOM 等を活用していきます。

学校の教育活動の中では「ロイロノートスクール」ソフトの活用等により、画像・プレゼンテーション等を活用した効果的な資料提示や、生徒の作成物等の提出、生徒相互の作品資料提示や意見交換などが可能となります。主体的・対話的で深い学びにつながるように、教職員・生徒の端末の活用力を高めてまいります。

学校生活の様子はHPの保護者専用ページでもご紹介しています。ぜひご覧ください。

今年度から中学校の学習内容や方法、評価（成績のつけ方）が大きく変わります。

今の中学生たちには、情報化やグローバル化の進展、技術革新により、変化の激しい社会を生き抜いていく力が必要となります。価値観がさらに多様化するため、主体的に正しい情報を見だし、深く考え判断し、自分で選択する力やその根拠を的確に表現する力が求められます。また、他者と協働して考えを深め、新しい考えを生み出すコミュニケーション力が必要です。

このような子どもたちが生きる未来の社会を見据え、今年度から文部科学省の中学校の学習指導要領が変わります。新学習指導要領では、変化の激しい社会に必要な資質・能力を次の3つの柱に整理し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことを目標としています。

- 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
- 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」
- 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」

この3つの資質・能力を育むため、「主体的・対話的で深い学び」ができるよう学習内容や方法の改善が必要です。一方的に教え、覚えることを重視する授業だけでなく、生徒が主体的に考え、対話を通して深められる課題、ペアやグループで学ぶ活動などが求められます。



新学習指導要領の目標達成に向け、評価方法（成績のつけ方）も変わります。

左図のように、新学習指導要領が目指す3つの資質・能力と評価を整合させ、これからは、全ての教科で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価していきます。

知識・技能：単に知識として暗記しているだけでなく、他の学習や生活場面でも活用できる程度に、その知識や技能の持つ意味や背景を理解しているかを評価。

思考・判断・表現：知識や技能を活用し、課題に対して資料等を分析して考えたり、自分と他者の考えを交流することを通して考えを深めたり課題を解決したりする力を評価。

主体的に学習に取り組む態度：積極的な発言や、提出物の状況、授業中の態度等だけでなく、学習の「めあて」の達成、資質・能力を身に付けようとする態度を次の2側面で評価。

ア. 粘り強い取組を行おうとする側面＝（知識・技能や思考力・判断力・表現力を身に付けるために）粘り強く取り組んでいるか。

イ. 自らの学習を調整しようとする側面＝粘り強い取組を行う中で、より良い方向に調整しながら学びを進めたり深めたりしようとしているか。学習の調整とは、学習のめあてに沿って今までの学習を生かす、学習に見通しを持つ、友だちと対話する中で気づいたことを取り入れる、自分の理解の状況を把握し次の学びや他の学習や生活につなげていく等。

上記の観点別評価は、定期テストや単元テストなどのペーパーテストや、パフォーマンステスト（表現力テスト、実技的テスト）、作品の技能・表現・工夫の様子、作文やレポート、授業中の発表や取組の様子、自己評価や生徒間の相互評価の状況、グループで学び合う様子等に基づいて行います。3つの観点について、観点別評価A・B・Cを行い、それを基に5段階評定を行います。

このため、これまでよりも評定に占める定期テストの重みは少なくなり、今まで以上に、授業の中での活動などが重要となります。生徒たちには各教科の授業で説明し指導していきますが、教員も指導方法の改善に取り組み、生徒も日々の授業にしっかりと取り組む中で、学びを深めていくことと、その成果に期待していきたいと考えています。